

〔第31回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

老化に伴う睡眠変化の 調節機構の解明（22-3）

総合生理学研究部

佐藤 亜希子 副部長

2024年12月17日(火) 15時00分～
第1研究棟2階大会議室

老化に伴い、睡眠形態には大きな変化が認められる。例えば、歳をとるとヒトを含む哺乳動物では睡眠の不安定性すなわち睡眠エピソードが持続できなくなる睡眠の断片化が認められる。睡眠断片化は、さまざまな健康障害につながることで報告されている。また、こういった微細な睡眠変化は様々な老化関連神経変性疾患の発症前段階で認められる。したがって、日常生活に支障をきたしうる睡眠変化の予防や改善は健康寿命の延伸につながる重要な課題である。本発表では、これまで明らかになってきた視床下部を介した睡眠断片化制御メカニズムと睡眠障害が全身の老化現象に影響を及ぼしうるメカニズムについて紹介したい。

座長：丸山 光生 GSRCセンター長
連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)